

ドル)を握って左右に操つる真似。

賢い 指頭を前方にさした親指と人差指を合わせた手を頭の上稍横寄りに置いてから両指を開く。頭脳が開いていること。即ち「賢い」「棟功」である。「知る」「知識」ともなる。

過失 「過まち」と同じ手まね。

数 「いくつ」と同じ手まねで表わす。即ち、親指から順次に五指を数えるように折って行く。

貸す 「少し」の手まねをしたその手を前へさし出す

稼ぐ 働く——金儲ける。

風邪 左右何れかの集め合わせた指頭を咽喉につけ咳を出す表情。

固い 「石」の如く同じ手まね。

敵打ち 親指と人差指の指頭を上にし、掌を内側に向けた両手。右手を左へ、左手を

右へと腕で交叉して、夫々の親指と人差指の指頭を合わせる(これまでは「互い」の手まねを同時にそのまま両手の二指の指頭を下に向ける。

片付ける 五指の指頭を前方にさし掌を左に向けた右手。これも五指の指頭を前方にさし掌を右に向けた左手。この両手を胸の前後寄りに間隔を置いて平行にならべてから、そのままの両手を少しばかり上げて左へ移しては下げてはまた上げては左へ移して下げる。これを三度ばかり繰返して行く。物をきつしりと並らべて置く身振り。「整理整頓」でありまた「計画」「準備」ともなる。

刀(刀剣) 左脇腹のところ、左手に刀の鞘を持ち、右手で刀の柄を持つ真似をして、右手で刀を抜く身振りをすればよい。

勝つ 鼻頭の上に拳を持って行って、「鼻高」即ち「天狗」(「よし」と云う手まね)

を表わし、右手を上げて見せる。一軍配が上
がった。

渴^かえる 五指の指頭を上にしし掌を内側に
向けた手で、咽喉の上を軽く叩たく。咽喉が
からからに乾き切ったのを訴える表現。

がっかり 五指を彎曲した両手の指頭を左
右夫々の胸に軽くつけてから、両手を下にす
り落す。がっかりとした表情で肩を落す身振
を伴う。

合併 「合わせる」手まねをして更に両手
五指を開いて掌をびったりと合わせる。

家庭 家―肉身―人々。家を表わした両手
のうち左手をそのままにして置いて、右手で
「肉身」を即ち、人差指と親指で頬を軽くつ
まみ或は人差指だけでその指頭で頬を撫で降
す。次に「人々」を左手(家)の下に表わ
す。家の中の肉親の人々。

下等 「卑しい」と同じ手まね。

叶う 「あてはまる」と同じ手まね。「適
当」「適度」の手まねにもなる。

悲しい 人差指と親指の指頭を合わせたの
を眼の下から頬を伝わらせて降して行く。涙
が頬を流れ落ちる様。

必ず (イ)「決っている」と同じ手まねを強
く表わす。(ロ)「約束」の手まねを強く指に
を入れて表わす。

蟹^{かに} 掌を下に向けた両手を互の親指をまげ
てつなぎ、共に他の四指を曲げ伸ばししなが
ら、横に移動させる。蟹横述いの表現。

金(金銭) 人差指と親指で丸い輪をつくる
(他の四指は伸ばしたまま)

鐘 (イ) 吊鐘、檀木から垂れ下った網を両
手で持って鐘をつく身振り。(ロ) 洋式の鐘。

鉦 網を引いて鳴らせる身振り。(イ) 掌を
右側に向け、指頭を前方にさした五指をC形
に彎曲させたのを鉦とみなして、右手の人差